

NANTAN

119だより

NANTAN
FIRE DEPARTMENT

2025

No.

36



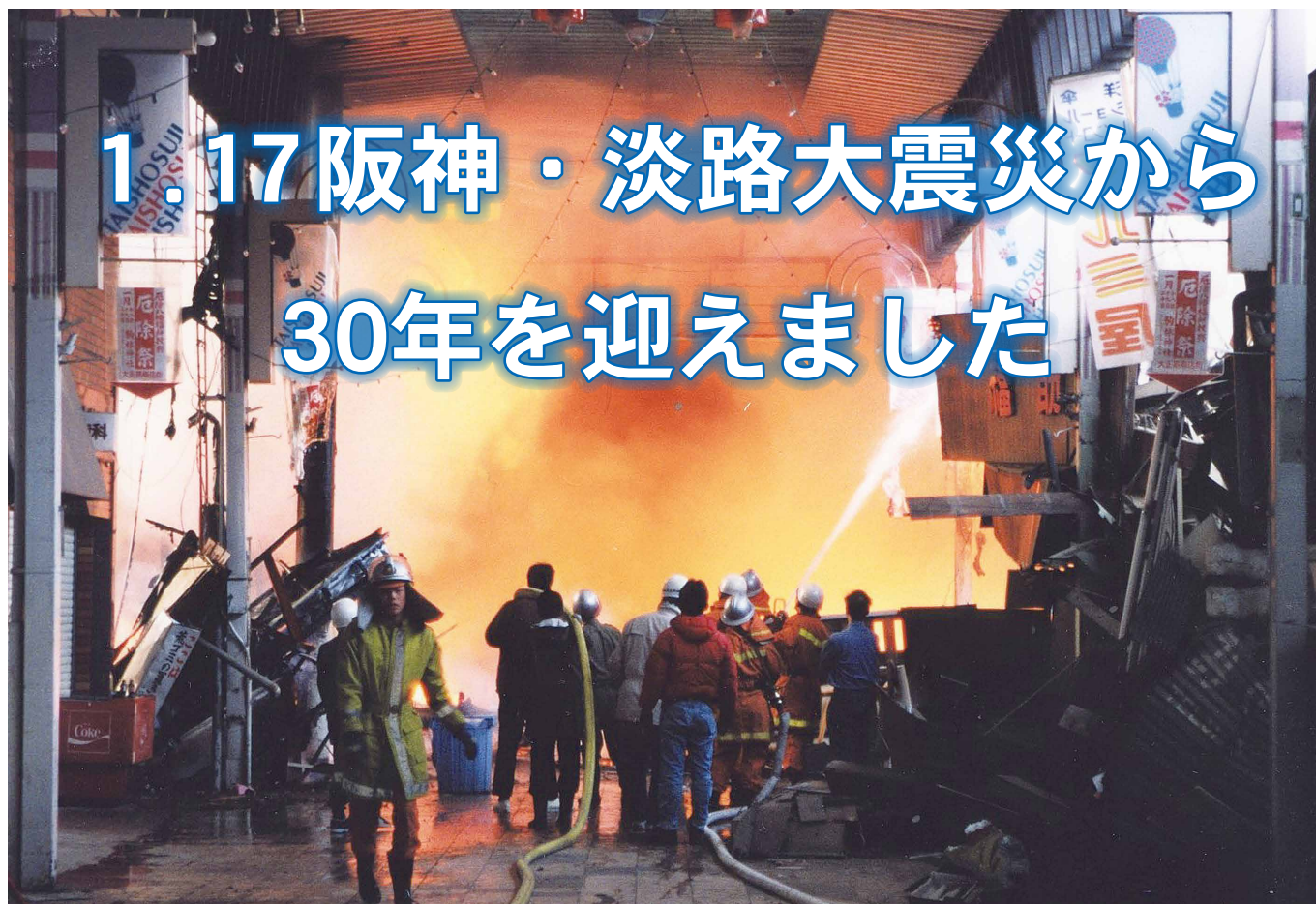
主な内容

1 表紙：糸井こども園
はしご車写生会

特集 1.17 阪神・淡路大震災から
30年を迎えました 2・3

◆ 秋の火災予防運動に伴う行事
(はしご車写生会、消防ふれあい祭り) 4

◆ 消防出初式
南但消防本部消防錬成会
全国救急隊員シンポジウム 5



1.17阪神・淡路大震災から 30年を迎えました

①神戸市内での火災の様子「写真①～③提供：神戸市」

阪神・淡路大震災における被害状況

区 分			計	うち兵庫県
人的被害	死者	人	6,434	6,402
	負傷者	人	43,792	40,092
	行方不明者	人	3	3
住家被害	全壊	棟	104,906	104,004
	半壊	棟	144,274	136,952
	一部損壊	棟	390,506	297,811
焼損棟数		棟	7,574	7,534

(平成18年5月19日消防庁確定)

阪神・淡路大震災から30年を迎えました。建物の倒壊やそれに伴う火災で多くの人が亡くなり、甚大な被害をもたらしたあの日の記憶を忘れることはないでしょう。(写真①)

平成7年1月17日、午前5時46分、淡路島を震源とするマグニチュード7・3の地震が発生しました。この地震は、内陸で発生した直下型地震で神戸市などでは観測史上初の震度7を記録しました。

観測史上初の
震度7記録

阪神・淡路大震災のニュースや当時の写真を見たことはありませんか？住宅の耐震化が進んでおらず、多くの建物が倒壊しました。また、地震後の家の中の様子を見ると、食器棚やたんすなどの家具が散乱し大きな被害をもたらしました。阪神・淡路大震災では、住宅内部被害によるけがの原因の7割以上が家具などの転倒落下とガラスの破損によるものと言われています。(写真②)

あの日を忘れない

当時、震災現場で活動した当本部の職員は、「生存者を救出できたのは僅か数名だった。太い柱の下敷き、幾つも積み重なった壁の下敷き、多くの死を目の当たりにした。私たち消防士はあの日を絶対に忘れない、そして一層の救助技術の向上を目指す。毎年この日を迎える度今一度、気を引き締め直し、住民の安全安心を守りたい」と強く語りました。

自助／自宅での備え

「自助」とは、災害が発生したときに、自分自身や家族の身の安全を守るために「自分の身は自分で守る」という考えのもと、日常的に災害に対する備えや災害時の対応を行っていくことです。阪神・淡路大震災以降、住宅の耐震化が進みましたが、令和6年能登半島地震でも旧耐震の建物が多数倒壊し、過疎高齢化地域の安全をどう確保していくかが重要な問題となっています。



②地震発生直後の家の中の状況

共助／地域で、皆で協力して取り組む

「共助」とは、災害時にまず自分自身や家族の安全を確保した後、近所や地域住民と助け合うことです。阪神・淡路大震災では、一番多くの人命を救助したのは地域の住民による「共助」でした。「消防車も、救急車も、救助隊も来ない」という最悪の事態のなか、地域の人々が協力し合って災害に立ち向かった結果であると言えます。この震災以降、地域における防災活動の重要性、自主防災組織の必要性について教訓を得ました。災害時には地域住民の助け合いが不可欠なものとなります。



▲地域での防災訓練の様子（養父市）

公助／行政機関などが守る

「公助」とは、行政、消防、警察、自衛隊などによる公的な支援のことです。阪神・淡路大震災が発生した当時は、全国規模での災害派遣の体制がなく、多くの課題を残しました。（写真③）これを契機に平成7年に我が国のどこかで大規模災害が発生した場合は、全国から消防の救助隊が被災地に応援に駆けつけ、人命救助などを行う「緊急消防援助隊」が創設されました。平成16年には法制化され、東日本大震災や令和6年能登半島地震を始めたとする大規模災害に出動しています。



③救助を待つ住民

おわりに

発災の年の平成7年以降に生まれた人々が増えるなか、「あの日」を知らない世代が阪神・淡路大震災を伝え、来るべき災害に備える時代となってきました。阪神・淡路大震災から30年、震災の記憶の風化を防ぐとともに、経験と教訓を忘れることなく、地域や世代を超えて伝え続け、南海トラフ地震をはじめとする大災害への備えが重要です。

「自助」、「共助」、「公助」のうち、地域住民自らができるのは、「自助」と「共助」です。阪神・淡路大震災では、約8割が「公助」の助けではなく、「自助」、「共助」によるものでした。災害直後の人命救助では、災害規模が大きいほど近所の住民の協力が重要な役割を果たします。一人ひとりが、「自分の身は自分で守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えを持ち、日頃から災害に備えておくことで、被害を軽減することができます。

秋の火災予防運動

令和6年11月9日（土）から11月15日（金）までの7日間、秋の火災予防運動を実施しました。今年も火災予防運動期間中の行事を通して、たくさん子どもたちと防火・防災についてふれあいました。



童和こども園での消火体験の様子

女性消防団員も参加！こども園で火災予防広報

11月11日（月）に朝来市の糸井こども園、12日（火）に養父市の童和こども園で、両市の女性消防団員を迎え、「はしご車写真会」を開催しました。みんな憧れのはしご車を前に興奮する園児たち。画用紙いっぱい立派なはしご車を描いてくれました。

それぞれのこども園で、女性消防団員が訓練用消火器を使用した消火体験のサポートや防火・防災に関する〇×クイズを行いました。消火体験では女性消防団員の「火事を消すぞー！」の掛け声の後、園児の力強い「おー！」の合図で消火しました。

はしご車写真会の様子



▲ 糸井こども園

立派なはしご車の完成



※こちらの作品は、今号から4コマ漫画のタイトル（P8）に登場します。

〇×クイズの様子



▲ 童和こども園

今年も親子揃って、はしご車搭乗体験

令和6年11月17日（日）にイオン和田山ショッピングセンターで「消防ふれあい祭り」を開催しました。

このイベントは、多くの子どもたちに訪れてもらい幼少期から防火・防災について身近に感じてもらうことを目的としています。そこで、毎年人気のはしご車搭乗体験をはじめ訓練用消火器を使用した消火体験、住宅用火災警報器の普及啓発を行いました。

はしご車搭乗体験では、体験を心待ちにした親子連れで大行列ができるほど大人気。順番待ちの子どもから「大きくなったら消防士になって、はしご車を操縦したい」と嬉しい声があがっていました。

イベントに参加してくれた子どもたちには、少しでも防火・防災に興味を持ってもらい、今後地域の防火・防災の担い手とつなぎ手になってくれることを期待しています。



▲ はしご車搭乗体験

出初式を開催しました

令和7年1月10日(金)、当日は降りしきる雪の中、南但消防本部「出初式」を開催しました。式典では南但広域行政事務組合藤岡管理者の式辞をうけ、職員が一丸となって安全・安心な南但を目指すことを誓いました。

また、屋外訓練場では悪天候の中、消防車両7台、職員24人が部隊指揮者の指揮により、小隊ごとに車両前に整列し、観閲者による部隊観閲を受けました。

引き続き救急救助訓練では、救助隊員が救助資機材を使用し、地震で被災したビル内とビル付近で重量物の下敷きになった要救助者を救出し、救急隊が救命処置を行いました。その後はしご車を使用し、被災した5階建てのビルから要救助者を救出するなど、日頃の訓練成果を存分に披露することができました。

最後に消防車2台と、しご車からの一斉放水を行い、出初式を締めくくりました。「安全・安心して暮らせる南但」を目指すとともに、市民の信頼・期待に応え得る消防としてより一層邁進することを決意しました。



▲観閲者による部隊観閲



▲一斉放水



▲救助工作車の前で記念撮影



▲はしごを使用し建物へ放水

令和6年12月10日(火)、11日(水)に南但消防本部として初めてのとなる消防錬成会を実施しました。

この消防錬成会は、消防活動の習熟を図り、安全かつ円滑な現場活動に繋げる目的で行い、各署所(朝来署・養父署・生野出張所・大屋出張所)から1隊4名の小隊で、計8隊が訓練に参加しました。訓練想定は、鉄筋コンクリート造2階建て一般住宅で火災が発生というもので、訓練を通じて隊員間の情報共有の重要性を再確認する機会となりました。消防錬成会で得た知識・技術を意見交換し、これらの現場活動に繋がります。

消防錬成会

このシンポジウムでは全国の救急隊員を中心に多くの救急医療従事者が集まり、我が国の救急医療に対応するため様々な発表が行われます。当地域の救急医療の要であるドクターヘリ・ドクターカー事業のさらなる発展のため、今後も当本部の取り組みを全国に向けて発信し、救急活動の発展に努めます。

令和6年11月21日(木)、22日(金)の両日、秋田県秋田市で開催された第33回全国救急隊員シンポジウムに当本部から松井純一消防司令補が「ドクターヘリ・ドクターカーのキーワード方式は、覚知同時要請率の向上に寄与している」と題し、発表しました。



▲発表した松井純一司令補

「第33回全国救急隊員シンポジウムでの発表」



緑風の郷・グループホーム木の香 消火訓練



シーレックス(株)兵庫工場 消火訓練



あさがおホール・ケアハウス朝来 避難訓練



めばえのにわ保育園 消火訓練



八鹿鉄工(株) 消火訓練



やなせこども園 消火訓練



日光こども園 消火訓練



枚田みのり保育園 避難訓練



NPO法人 りとるめいと 救急訓練

※救助活動・救助人員
ともに増加
救助件数は61件で、前
年と比較すると5件増加
しています。61件のうち
45件で救助活動を行い、49
人を救助しています。

救 助

※救急件数・搬送人員
ともに減少
救急件数は2,948件
搬送人員は2,682人で
した。前年と比較すると
救急件数は99件、搬送人
員は31人減少しています。

救 急

※総数減少
出火件数は12件で消防
本部発足以降、最少の出
火件数となりました。前
年と比較すると16件減少
しています。

火 災

消 防 白 書

令和6年
1月～12月

種別	署別	総 数	朝来署	養父署	管 外
総 数		61 (56)	32 (19)	28 (37)	1 (0)
交通事故		29	15	13	1
機 械		0	0	0	0
水 難		2	1	1	0
その 他		30	16	14	0

() 内は前年件数

種別	署別	総 数	朝来署	養父署	管轄外
総 数		2,948 (3,047)	1,576 (1,648)	1,370 (1,398)	2 (1)
急 病		1,872	1,043	829	0
交通事故		174	92	80	2
一般負傷		493	246	247	0
その 他		409	195	214	0

() 内は前年件数

種別	署別	総 数	朝来署	養父署
総 数		12 (28)	4 (16)	8 (12)
建 物		5	3	2
林 野		0	0	0
車 両		2	0	2
その 他		5	1	4

() 内は前年件数



養父小学校・広谷小学校・建屋小学校



関宮学園

各小学校 庁舎見学



伊佐小学校・宿南小学校



生野小学校



東河小学校



中川小学校



梁瀬小学校



枚田小学校



大屋小学校

火災調査レポート

こんろからの出火に注意！

台所からの出火原因は「こんろ」からの発生が最も多くなっています。今回は「こんろ」から火災を防ぐ注意点と安全対策について紹介します。

注意点① 調理中はそばから離れない

・こんろの使用中には絶対に火のそばから離れず、少しでも離れるときは火を消しましょう。

注意点② こんろの周りは、整理整頓

・周りに使用済みの油や布巾、新聞紙など燃えやすいものを置かないようにしましょう。

注意点③ 衣服への着火に注意「着衣着火」

・裾や袖が広がりがり着衣に着火しやすい「たるだる」「もふもふ」の衣服などは避けましょう。

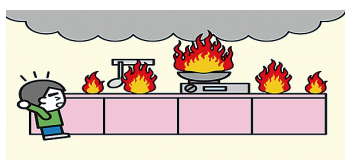
安全対策 安全装置付きの「Siセンサーコンロ」

- ・「調理油過熱防止装置」
- ・「消し忘れ消火機能」
- ・「立ち消え安全装置」

3つの安全装置により火災のリスクは低下します。ぜひ、この機会にSiセンサーコンロに交換してみてくださいいかがでしょうか。

※電気調理器は安全？

「IHコンロなど火を使わない電気調理器からは火災は起こらない」と考える人も多いのではないのでしょうか。IH専用鍋などを使用しなかったり、少量の油しか入れずに揚げ物をしたりすることで急激に加熱され、火災になることもあります。十分に注意してください。



お知らせ

◆朝来消防署救急車更新

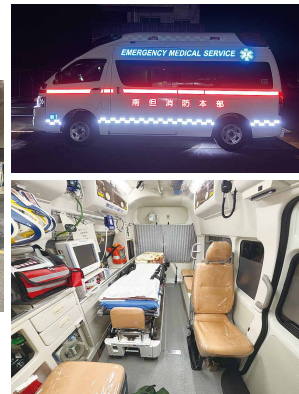
令和6年度、朝来消防署の高規格救急自動車を更新し、令和6年12月4日から運用を開始しています。

主な特徴は、積雪時にも対応できる四輪駆動車で、全周囲力メウなどの安全装置を充実させるとともに、発光パターンが変化する赤色警光灯や、反射材のデザインを変更し、視認性を向上させています。

防振ベッドについては、加速減速時に生じる不快感を減らす磁気式を導入しており、傷病者への負担軽減を図っています。また、患者室内のフロア床面には防滑・抗菌・防カビ仕様の床材を採用しました。

車内には、救急活動に欠か

せない患者監視装置、人工呼吸器、自動心臓マッサージ器、半自動除細動器、ビデオ喉頭鏡、薬剤など、約50種類の救急資器材を備えており、24時間365日体制で住民の皆さんの安全・安心に万全を期しています。



◆春の火災予防運動

火災が発生しやすい時季を迎えるにあたり、火災予防思想の一層の普及を図ることを目的として、3月1日から3月7日までの7日間、全国一斉に春の火災予防運動が展開されます。

守りたい
未来があるから
火の用心
3月1日～3月7日



- 立入検査 病院・福祉施設
- 消防教室 事業場・各地区
- 広報活動 防火ポスターの配布
- 防火研修 病院・福祉施設

◆住宅用火災警報器に関するアンケート調査結果

消防本部では、住宅用火災警報器に関する住民の皆さんの意識と設置状況、維持管理状況を把握するため、養父市・朝来市内に在住の方を対象に消防教室や各種講習会などを通じてアンケート調査を実施しました。(結果…下図参照)

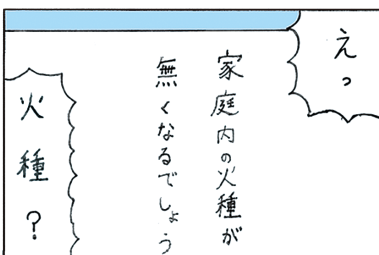
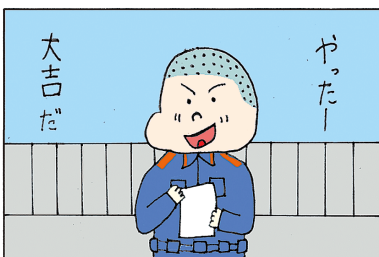
市別	調査対象数	設置率	条例適合率	作動確認実施率
養父市	230人	82.6 %	65.7 %	34.2 %
		190人	151人	65人
朝来市	249人	89.2 %	72.3 %	37.4 %
		222人	180人	83人
合計	479人	86.0 %	69.1 %	35.9 %
		412人	331人	148人

点検方法

- ①ひもを引く
- ②点検（試験）ボタンを押す



10年を目安に
交換しましょう



NANTAN
119だより

NANTAN 119だより第36号

2025年 2月1日発行 (年3回発行)

■発行・編集

南但消防本部予防課

兵庫県朝来市

和田山町枚田436-1

南但消防本部

